

4. 聴覚障害編

(1) 耳の不自由な人に出会ったら

聴覚障害者であることは、外見だけではわかりにくいいため、まわりの人たちは「耳が聞こえない」ことに気づかなかったり、正しく理解できないということがしばしばあります。また、ろうの方、難聴の方、中途失聴の方などいろいろで、支援方法も異なります。

① 相手に声をかけるとき

相手に呼びかけるときは、手を振るなど視野に入るような合図を送ったり、肩をトントンとたたいたりしてください。

② 自分にできるコミュニケーションを

生まれたときから聴覚障害を持っている人の場合は、「手話」を使うことが多いのですが、大人になってから突然聞こえなくなった人の場合などは、手話を知らないため、コミュニケーション方法も「指文字」や「口話」、「筆談」といったように、本人の境遇により異なります。手話等を知らなくても、携帯電話の画面や筆談等、自分にできるコミュニケーション手段を取りましょう。

③ 手話について

聴覚障害者の方々のコミュニケーションの方法として手話があります。手話は聞こえない人たちの「言葉」です。「手話教室」などもあり、簡単な手話を覚えると、コミュニケーションに役立ちます。

④ 口話について

口話は目が合ってから、正面で大きく口をあけて、ゆっくりはっきり話しましょう。むやみに大声を張り上げたり、1文字ずつ細かく区切って話すと、かえって口話での把握が困難になるため、自然に分節単位で区切りながら話してください。

伝えた内容を本人から具体的に返事をもらう、あるいは確認を促すことも大切です。

⑤ 筆談について

筆談のときは、短い文で、わかりやすく、簡潔に書きましょう。必ずしも全て書く必要は無く、キーワードや単語単位でも伝わります。